

ジョブデザイン・サポートプログラム

職場復帰に向けた調整のための 効果的なアセスメントの 実施方法

はじめに

障害者職業総合センター職業センターにおいては、気分障害等の精神疾患により休職中の方々の職場への再適応を支援し、離職の防止と雇用の安定を図るための精神障害者職場再適応支援プログラム（JDSP : Job Design Support Program）を実施し、職場復帰に向けて必要となる各種スキルの習得等に係る効果的な支援技法の開発・普及に取り組んでいます。

精神障害者の職場復帰支援を効果的に実施するためには、支援の準備段階において、休職者と事業主が捉えている課題やリワーク支援で取り組む目標等をすり合わせ、共通認識を持つことが重要です。しかし、職場復帰支援の開始段階で行うアセスメントの実施方法は、休職者の状況にもよりますが地域センターごとに様々な手法が用いられ、体系的に整理されているとは言えない状況です。

そこで、本実践報告書では、事業主と休職者が職場復帰に向けた合意形成を行う際のポイント、合意形成後の円滑な支援や職場環境の調整等につなげるための支援ツール等を整理し、取りまとめることとしました。

厚生労働省の「令和5年労働安全衛生調査」の結果によると、過去1年間にメンタルヘルス不調により連続1か月以上休業した労働者がいた事業所の割合は、50～99人規模の事業所では28.2%、1000人以上規模の事業所では91.2%となっています。円滑な職場復帰及び職場復帰後の再休職を予防するための有効な手段の一つとして、事業場外資源による職場復帰支援が挙げられますが、地域障害者職業センターが実施するリワーク支援のみならず、医療機関におけるリワーク支援の拡大や、障害福祉サービス事業所での取組等、リワーク支援の裾野が広がってきています。

このように、円滑な職場復帰を支える支援が今後さらに必要とされることが見込まれる中であって、本実践報告書が、様々な機関の職場復帰支援において活用され、職業リハビリテーションサービスの質的向上の一助となれば幸いです。

令和7年3月

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
障害者職業総合センター 職業センター
職業センター長 那須 利久